

今帰仁城（なきじんぐすく）跡

模型:

この 1/100 縮尺模型は、14 世紀半ばから 15 世紀にかけての今帰仁城の最盛期の城壁の様子です。今帰仁城の最盛期は、琉球王国が北山、中山、南山という三つの王国に分かれていた琉球三山時代（1314～1429）と同じ時期でした。

場所:

今帰仁城は、やんばる地域の入り口という戦略的に重要な場所に座しています。岩の多い山腹に立てられた今帰仁城は、東シナ海を見晴らしつつ本部半島にそびえており、東の険しい峡谷から城の主な水源であった志慶真川に水が流れます。

歴史:

この場所の最初の砦は、13 世紀に建てられた木の柵でした。よく知られている不規則に積み上げられた古期石灰岩の壁は、14 世紀に建築が始まり、徐々に拡大・延長されていきました。今帰仁は 1609 年までずっと占有されており、当初は北山王国の王の居城として使われました。15 世紀初期の軍事的敗北と三国の統一の後、琉球王国の政府によって監守が任命されました。1609 年、九州南部を支配していた薩摩藩による侵略の際、今帰仁城は焼け落とされ、住むことができない状態にされてしまいました。

城郭:

今帰仁は 9 つの区画（曲輪（くるわ）または 郭）に分かれています。それぞれが異なった役割を有していたと考えられています。

外郭

この郭の用途は未だ明らかになっていません。

大隅（うーしみ）郭

この区域は兵馬の訓練に使われたと考えられています。

大庭（うーみやー）と御内原（ううちばる）

二棟の重要な建物を有する大庭は、城の祭祀の中心だった場所であると考えられています。御内原は、女官たちの居住区でした。

主郭

城の最も高い場所に位置するこの郭には、最も重要な祭祀用の殿舎がありました。

志慶真門郭

これは、高位の兵士のための居住区であったと考えられています。

正門（平郎門）

城の正門

カーザフ郭

これは、かつて底に天然の湧き水が湧いていた岩が多く険しい谷です。現在は干上がっています。